

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2015 年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2016 年 4 月 20 日 提出

1. 研究課題名	
演劇上演記録のデータ・ベース化と活用、ならびに汎用利用システム構築に関する研究 (英文標記: _____)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
武藤 祥子(むとう さちこ)	公益財団法人 松竹大谷図書館
3. 研究分担者 (合計: _____ 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
井川繭子(いがわまゆこ)	松竹大谷図書館
村島彩加(むらしまあやか)	日本学術振興会・PD
倉橋正恵(くらはしまさえ)	立命館大学衣笠研究機構客員研究員
青山いずみ(あおやまいずみ)	立命館大学文学研究科 博士前期課程 M2

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
<p>松竹大谷図書館は、開館以来、演劇史や演劇資料整理の基礎となる演劇上演記録を作成してきた。この上演記録は、主に明治初年から戦前までの東京の記録と、戦後の各地の大劇場、及び東京の小劇場の記録である。これらの上演記録は、元々カード式によって整理されていたもので、これをデータベースに移行しつつ、不完全な情報については、資料の原典に当たるなど精緻化、考証を進めてデータの精度を上げ、日本演劇の研究と資料整理の基礎となる上演記録データベースを構築する。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>2015 年度の研究では、昨年度に引き続き劇場ごとの演劇上演記録を、京都座、浅草松竹座、邦楽座、読売ホール、都市センターホール、前進座劇場の各劇場のデータについて考証を終了することができた。</p> <p>それに加えて、ジャンルごとの考証作業として、各劇場で上演された舞踊会興行について上演記録の作成と考証作業を、戦後の昭和 20 年より昭和 40 年まで行った。入力作業にあたっては、松竹大谷図書館が「舞踊会筋書」として上演年順に合本保存している、これまで目録化されていなかった筋書(プログラム)を網羅的に入力した。データには上演年月、劇場、興行名(会名)、主催者などを入力し、舞踊会の記録を探す際によく利用される、会名や舞踊家名などのキーワードで検索ができるようにした。また、歌舞伎俳優が出演した舞踊会興行については、歌舞伎俳優の出演記録を作成する際の参考となるように、上演タイトル及び出演者も採用して入力した。歌舞伎の本興行で上演される舞踊作品の中には、舞踊会で初演された作品も多くあり、松竹大谷図書館では今後公演プログラムに掲載される作品ごとの上演年表を作成する際にも欠かせない重要な参考資料として活用している。</p>

上記の考証作業は、昨年度より引き続き担当している、演劇の専門知識を持った人材 2 名により入力作業が行われた。考証作業も 2 年目に入り継続して作業を行う中で、内容もより高度な考証を自主的に行えるようになって充実したデータが完成するなど、確実に成果が上がってきている。

また、2014 年度研究で行った新派上演データベースの考証作業は、基となる入力データが完成し、公開データベースの構築作業を進めている。データ件数は、2,653 件である。

さらに、別予算で進めている芝居番付のデジタル化はアート・リサーチセンターとのコラボレーションで引き続き進行中である。2015 年中に画像化が完了し、目録データの入力考証作業を進めている。作業が完了したデータから順次公開中である。

6. 研究業績

(1) 著書

1. 公演プログラム(歌舞伎座、新橋演舞場、明治座、南座、大阪松竹座、御園座、博多座)／共同／2014 年 4 月 1 日以降発行の各月(但し歌舞伎本公演に限る)／巻末掲載上演年表

(2) 論文

(3) 研究発表等

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

(9) その他